

土砂災害を防ぐため、さまざまな施設が活躍しています

「まさかのとき」に慌てないため 土砂災害の知識と安全な避難方法を身につけておきましょう

大量の土砂が一気に押し寄せる土石流。いつもは穏やかな斜面が、ある日突然人家を襲うガケ崩れ・山崩れ。土地の表面が流れ出す地滑り。こうした土砂災害は突然やってきますが、前兆があり、また予防が可能な部分も少なくないのです。

豊かな自然を誇る岐阜県では、土砂災害の危険からみなさんの命を守るために、砂防堰堤をはじめとするさまざまな対策・整備を行っています。しかし、これ

で100%安全が保証されたわけではありません。万が一のために、みなさんがみずから自身で命を守るために、日ごろから土砂災害についての知識を深め、意識を持って対応していただきたいです。

自分と家族の身を守るために、常日ごろから身の回りの斜面や山地に注意を払っていただきたいです。そして、まさかのときには、迅速に、安全に、避難場所への移動をお願いします。

砂防堰堤（土石流対策）

上流から流れてくる土砂を受け止めて、下流に被害が及ばないようにします。また砂防堰堤に土砂がたまることで、溪流の勾配が緩くなり、土砂が流出しにくくなるという働きもあります。

抑制工・抑止工（地滑り対策）

抑制工は、地形を変えたりや地下水の条件を変えたりすることで、地滑りを抑えます。抑止工は、地面に大きな杭などを打ち込んで、地滑りをくい止めます。

山腹工（山崩れ対策）

山腹工は、斜面に土留めをし、そこへ樹木などを植えます。植物の生長に伴って、斜面が安定し、土砂の流出などを抑える働きをします。

擁壁工・法枠工（ガケ崩れ対策）

擁壁工は、頑丈な壁を立ててガケ崩れなどを抑えるもの。法枠工は、斜面（法面）に枠を組み、内部に植物などを植えることで、斜面が浸食されるのを防ぐものです。

